

# 平成19年6月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成18年11月10日

上場会社名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社 （コード番号： 7707 大証 ヘラクレス市場）  
 （URL <http://www.pss.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 田島 秀二 （TEL 047-303-4800）  
 責任者役職・氏名 取締役業務本部長 秋本 淳

## 1 四半期業績の概況の作成等に係る事項

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無  
 連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有  
 連結（新規） 1社  
 持分法（新規） 1社  
 公認会計士又は監査法人による関与の有無 : 無

## 2 平成19年6月期第1四半期の財務・業績概況（平成18年7月1日～平成18年9月30日）

### (1) 経営成績（連結）の進捗状況

	売上高		営業利益		経常利益		当期(四半期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年6月期第1四半期	755	15.7	107	-	110	-	119	-
18年6月期第1四半期	653	0.4	69	-	73	-	314	-
(参考)18年6月期	3,636	13.1	12	90.4	18	83.1	250	-

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
19年6月期第1四半期	2,799	46	-	-
18年6月期第1四半期	7,580	89	-	-
(参考)18年6月期	5,926	68	-	-

(注) 持分法投資損益 19年6月期第1四半期 3百万円 18年6月期第1四半期 - 百万円 18年6月期 - 百万円  
 期中平均株式数 19年6月期第1四半期 42,817株 18年6月期第1四半期 41,468株 18年6月期 42,228株  
 会計処理の方法の変更 無

売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示す。

19年6月期第1四半期及び18年6月期第1四半期の営業利益等の対前年同四半期比増減率につきましては、営業利益等がマイナス値であるため記載しておりません。

19年6月期第1四半期及び18年6月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、新株予約権残高等がありますが、当期純損失が発生しているため記載しておりません。

19年6月期第1四半期及び18年6月期第1四半期に係る数値につきましては、監査法人の監査を受けておりません。

### [経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

	平成18年6月期 第1四半期 (前年同四半期)		平成19年6月期 第1四半期 (当四半期)		対前年同 期増減率	参考 平成18年6月期 (通期)	
	金額	百分比	金額	百分比		金額	百分比
売上高	653	100.0	755	100.0	15.7	3,636	100.0
売上総利益	268	41.2	313	41.5	16.7	1,462	40.2
営業利益	69	10.6	107	14.3	-	12	0.3
経常利益	73	11.2	110	14.6	-	18	0.5
当期純利益	314	48.1	119	15.9	-	250	6.9

当社の事業内容は、遺伝子・プロテオーム解析関連業界における研究開発やその研究成果の実用化に用いられる自動化機器、その他理化学機器、ソフトウェア等の開発及び製造販売、ならびに自動化機器に使用される試薬及びプラスチック消耗品の製造販売等であります。なかでも、独自の特許技術を利用して開発したオリジナル製品であります DNA 自動抽出装置等を主力製品と位置づけており、ロシュグループやキアゲングループなどのグローバル企業との OEM 契約(相手先ブランドによる販売)を通じ、ワールドワイドに製品供給を行っております。

当第 1 四半期は、ロシュグループ向けのプラスチック消耗品が順調に売上拡大したこと、新規 OEM 先である米国インビトロジェン社向けの製品供給が開始されたことなどから、売上高 755 百万円(前年同期比 15.7%増)と大幅な増収を確保いたしました。これに伴い、売上総利益も 313 百万円(前年同期比 16.7%増)と大幅な増益を確保することができました。

しかしながら、販売費及び一般管理費が 421 百万円(前年同期比 24.6%増)に増加したことにより、営業損失 107 百万円(前年同期比 38 百万円の増額)の計上となりました。費用増加の主な要因は、研究開発費 152 百万円(前年同期比 49.9%増)の計上にあります。当社は現在、遺伝子情報を解析・測定するための機器やデバイスの開発に注力しており、特に SNPs 診断、遺伝子発現解析、感染症診断の 3 分野をターゲットとして、そういった分野に応用可能な様々な生体物質や生体情報(バイオコンテンツ)を保有する大学・研究機関・民間企業とのコラボレーションを積極的に展開しております。当第 1 四半期においては、当連結会計年度に実施する複数の共同研究費の支払が重なったことから、研究開発費全体が大きく膨らむ結果となりました。第 2 四半期以降につきましては、研究開発費の圧縮は可能であると考えております。

営業外損益では、受取利息や為替差益などの営業外収益 10 百万円に対し、支払利息や社債発行費などの営業外費用 12 百万円となり、経常損失 110 百万円(前年同期比 36 百万円の増額)となりました。その他、法人税、住民税及び事業税 9 百万円などにより、当期純損失 119 百万円(前年同期比 194 百万円の減額)となりました。前年同期は、減損会計適用による特別損失 237 百万円を計上していましたが、当第 1 四半期は、そういった損失計上はありませんでした。

また、当連結会計年度から活動を開始したベンチャーキャピタル事業に関しては、現在、投資先開拓活動及びファンドへの出資者の募集活動を並行して進めておりますが、設立から間もなく、連結決算への影響は軽微であります。

取引先別の販売状況は、下表のとおりであります。

	平成 18 年 6 月期 第 1 四半期 (前年同四半期)		平成 19 年 6 月期 第 1 四半期 (当四半期)		対前年同期増減率	参考 平成 18 年 6 月期 (通期)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
ロシュグループ	364	55.7	405	53.7	11.4	1,870	51.4
キアゲングループ	180	27.7	128	17.0	29.1	984	27.1
(株)三菱化学ヤトロン	32	5.0	80	10.7	149.0	364	10.0
その他	75	11.6	140	18.6	85.8	416	11.5
合計	653	100.0	755	100.0	15.7	3,636	100.0

当社の主力製品であります DNA 自動抽出装置等(免疫化学発光測定装置を含む)は、OEM(相手先ブランドによる販売)を通じてワールドワイドに販売されております。OEM 先としては、ロシュグループ、キアゲングループ、(株)三菱化学ヤトロンの 3 社を主力 OEM 先と位置付けており、装置の利用に伴い消費される専用のプラスチック消耗品に関しても、OEM 先を通じて販売されております。

ロシュグループに関しましては、DNA 自動抽出装置等の出荷状況は、ほぼ前年同期並みでありましたが、プラスチック消耗品が順調に増加したことから、売上高 405 百万円(前年同期比 11.4%増)と順調な増収を確保いたしました。

キアゲングループに関しましては、プラスチック消耗品は順調な売上推移となりましたが、DNA 自動抽出装置等の出荷が前年同期を下回ったことから、売上高 128 百万円(前年同期比 29.1%減)となりました。しかしながら、第 2 四半期には、前年同期を上回る受注をいただいておりますので、中間期では前中間期並みの売上高確保は可能と考えております。

(株)三菱化学ヤトロンに関しましては、小型免疫化学発光測定装置「PATHFAST」が順調な売上推移となったことから、売上高 80 百万円(前年同期比 149.0%増)と大幅な増収を確保いたしました。

その他取引先に関しましては、新規に DNA 自動抽出装置等に関する OEM 契約を締結した米国インビトロジェン社向けに、製品出荷が開始されたことなどから、売上高 140 百万円(前年同期比 85.8%増)と増収を確保いたしました。

製品区分別の売上高は、下表のとおりであります。

	平成 18 年 6 月期 第 1 四半期 (前年同四半期)		平成 19 年 6 月期 第 1 四半期 (当四半期)		対前年同 期増減率	参考 平成 18 年 6 月期 (通期)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
DNA自動抽出装置等	376	57.6	389	51.5	3.4	2,120	58.3
その他理化学機器	27	4.2	31	4.2	16.6	185	5.1
その他製品	49	7.6	86	11.4	74.3	301	8.3
商品(プラスチック消耗品)	200	30.6	245	32.4	22.4	1,029	28.3
その他営業収入	-	-	3	0.5	-	-	-
合計	653	100.0	755	100.0	15.7	3,636	100.0

#### DNA自動抽出装置等

当区分は、当社の国際特許技術であるマグレーション・テクノロジーを利用した自動化装置の区分であり、DNA自動抽出装置の他、免疫化学発光測定装置も含んでおります。DNA自動抽出装置に関しては、バイオ研究分野の進展に伴い、多検体の短時間処理が必要となってくるため、その需要は拡大していくものと当社では考えております。

当第1四半期は、キアングループ向けの出荷が前年同期を下回る結果となりましたが、新規OEM先である米国インピトロジェン社向けの出荷が開始されたことなどから、全体では190台の販売実績で売上高389百万円(前年同期比3.4%増)と若干の増収になりました。例年、夏場を含む第1四半期は、ロシグループ、キアングループ向けの出荷が低調となる傾向がありますが、その中においては堅調に推移したものと考えております。

四半期毎の販売推移は、下表のとおりであります。なお、装置単価は機種により1台あたり1百万円台から10百万円以上までの品揃えがあるため変動しております。

(単位:台、千円)

	平成 17 年 6 月期				平成 18 年 6 月期				当連結会計年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
販売台数	150	232	232	287	189	359	275	258	190
販売金額	323,644	466,443	519,854	618,781	376,358	653,827	558,781	531,153	389,197
販売単価	2,157	2,010	2,240	2,156	1,991	1,821	2,031	2,058	2,048

#### その他理化学機器

当区分は、研究施設などで利用される各種自動化機器の他、各省庁やその外郭団体などからの受託開発事業の区分であります。

当第1四半期は、売上高31百万円(前年同期比16.6%増)となりました。当区分の売上高は、特注システムの受注動向によって大きく変動いたしますが、当連結会計年度は、大手臨床検査センターから大型の特注システムの受注をいただいておりますので、通期では前年実績を大きく上回る見通しであります。

#### その他製品

当区分は、装置メンテナンスやスペアパーツ(交換部品)販売、自社販売のDNA自動抽出装置等に使用される核酸抽出・精製のプレバック試薬、ソフトウェア開発などの区分であります。

当第1四半期は、売上高86百万円(前年同期比74.3%増)となりました。装置メンテナンスやスペアパーツ販売などは、装置の累計出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、当区分の売上高は、順調な伸長が期待できるものと考えております。

#### 商品(プラスチック消耗品)

当区分は、装置の使用に伴い消費されるチップやカートリッジなどのプラスチック消耗品の区分であります。当社のDNA自動抽出装置等に使用される専用のプラスチック消耗品が中心となっております。

当第1四半期は、売上高245百万円(前年同期比22.4%増)と順調な増収となりました。プラスチック消耗品は、装置の累計出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、今後も順調な伸長が期待できるものと考えております。

その他営業収入

当第1四半期においては、本年7月に設立したPSSキャピタル(株)が運営するバイオコンテンツ投資事業有限責任組合の管理報酬として、3百万円の売上高を計上しております。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
19年6月期第1四半期	4,755	2,822	59.4	65,915	98
18年6月期第1四半期	4,559	2,807	61.6	67,698	38
(参考)18年6月期	4,884	2,928	59.9	68,414	70

(注) 期末発行済株式数 19年6月期第1四半期 42,820株 18年6月期第1四半期 41,468株 18年6月期 42,800株

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当第1四半期における総資産は、前連結会計年度末に比べ129百万円の減少で4,755百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金が75百万円の増加、受取手形及び売掛金が283百万円の減少(前連結会計年度末の大口案件の入金などの影響)、たな卸資産が103百万円の増加(大手臨床検査センター向け特注機にかかる仕掛品の増加などの影響)となり、全体では169百万円の減少で3,674百万円となりました。固定資産は、バイオコンテンツ投資事業有限責任組合への出資46百万円の増加などにより、全体で39百万円の増加で1,080百万円となりました。

流動負債は、買掛金が152百万円の減少、一年以内返済予定の長期借入金が15百万円の減少となり、全体では174百万円の減少で788百万円となりました。固定負債は、社債が200百万円の増加(銀行引受による私募債発行によるもの)、長期借入金50百万円の減少となり、全体で150百万円の増加で1,144百万円となりました。

純資産は、当第1四半期の赤字計上などにより105百万円減少し2,822百万円となりました。自己資本比率は59.4%となっており、特段問題ない水準であります。

3 平成19年6月期の連結業績予想(平成18年7月1日～平成19年6月30日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり 予想当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	円	銭
中間期	1,750	40	60	1,401	32
通期	3,900	30～60	0～30	0	～700.61

[業績予想に関する定性的情報等]

当第1四半期末時点で、DNA自動抽出装置等の受注残高は645百万円(前年同期比14.2%減)となっており、今後3～4ヶ月程度で出荷していく予定であります。前年同期末には、(株)三菱化学ヤトロン向け装置の海外販売開始に伴う初期在庫確保の観点から、大きな受注をいただいておりますので、前年同期比でDNA自動抽出装置等に関する受注残は減少しておりますが、予想の範囲内であり、特段の問題はない水準であります。

第2四半期に関しては、上記DNA自動抽出装置等に加え、大手臨床検査センター向けの特注機の一部売上計上が予定されていること、また、プラスチック消耗品の販売も順調に拡大しておりますので、順調な売上計上が見込まれます。また、当第1四半期では研究開発費に大きな支出がありましたが、第2四半期では研究開発費の抑制は可能であり、その他の経費面もほぼ計画どおりに進んでおります。したがって、当初の業績予想の範囲内にて進捗しておりますので、平成18年8月11日の決算発表時に公表した業績予想に変更はありません。

第1四半期連結財務諸表

(1) 第1四半期連結貸借対照表

区分	前第1四半期末 (平成17年9月30日)		当第1四半期末 (平成18年9月30日)		前連結会計年度末 (平成18年6月30日)	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
(資産の部)						
流動資産						
1 現金及び預金	2,313,610		2,304,885		2,229,337	
2 受取手形及び売掛金	527,858		565,201		848,395	
3 たな卸資産	717,927		752,318		649,024	
4 その他	36,131		52,626		117,952	
5 貸倒引当金	179		205		263	
流動資産合計	3,595,347	78.9	3,674,825	77.3	3,844,447	78.7
固定資産						
1 有形固定資産						
(1) 建物及び構築物	292,927		312,121		314,122	
(2) 機械装置及び運搬具	100,337		118,442		117,276	
(3) 工具器具及び備品	185,712		258,370		264,001	
(4) 土地	329,893		295,153		294,582	
有形固定資産合計	908,871	19.9	984,088	20.7	990,001	20.3
2 無形固定資産	30,406	0.7	22,613	0.5	23,863	0.5
3 投資その他の資産	25,086	0.5	73,549	1.5	26,673	0.5
固定資産合計	964,364	21.1	1,080,252	22.7	1,040,538	21.3
資産合計	4,559,712	100.0	4,755,077	100.0	4,884,985	100.0

区分	前第1四半期末 (平成17年9月30日)		当第1四半期末 (平成18年9月30日)		前連結会計年度末 (平成18年6月30日)	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
<b>(負債の部)</b>						
流動負債						
1 買掛金	396,025		336,596		488,875	
2 一年以内返済予定の長期借入金	355,115		269,892		285,852	
3 賞与引当金	17,223		19,688		4,922	
4 その他	107,157		162,033		183,084	
流動負債合計	875,521	19.2	788,210	16.6	962,734	19.7
固定負債						
1 社債	250,000		550,000		350,000	
2 長期借入金	622,857		589,870		640,253	
3 繰延税金負債	1,595		2,501		2,229	
4 その他	2,421		1,924		1,565	
固定負債合計	876,874	19.2	1,144,296	24.0	994,047	20.4
負債合計	1,752,395	38.4	1,932,506	40.6	1,956,782	40.1
<b>(資本の部)</b>						
資本金	2,024,978	44.4	-	-	-	-
資本剰余金	2,491,267	54.6	-	-	-	-
利益剰余金	1,728,570	37.9	-	-	-	-
その他有価証券評価差額金	2,354	0.1	-	-	-	-
為替換算調整勘定	17,286	0.4	-	-	-	-
資本合計	2,807,316	61.6	-	-	-	-
負債・資本合計	4,559,712	100.0	-	-	-	-
<b>(純資産の部)</b>						
株主資本						
1 資本金	-	-	2,041,528	42.9	2,041,278	41.8
2 資本剰余金	-	-	2,508,099	52.7	2,507,844	51.3
3 利益剰余金	-	-	1,784,341	37.4	1,664,477	34.1
株主資本合計	-	-	2,765,285	58.2	2,884,644	59.0
評価・換算差額等						
1 その他有価証券評価差額金	-	-	3,690	0.1	3,289	0.1
2 繰延ヘッジ損益	-	-	327	0.0	18	0.0
3 為替換算調整勘定	-	-	53,873	1.1	40,233	0.8
評価・換算差額等合計	-	-	57,236	1.2	43,504	0.9
新株予約権	-	-	49	0.0	54	0.0
純資産合計	-	-	2,822,571	59.4	2,928,203	59.9
負債・純資産合計	-	-	4,755,077	100.0	4,884,985	100.0

## (2) 第1四半期連結損益計算書

区分	前第1四半期 (自平成17年7月1日 至平成17年9月30日)		当第1四半期 (自平成18年7月1日 至平成18年9月30日)		前連結会計年度 (自平成17年7月1日 至平成18年6月30日)	
	金額(千円)	百分比(%)	金額(千円)	百分比(%)	金額(千円)	百分比(%)
売上高	653,226	100.0	755,474	100.0	3,636,933	100.0
売上原価	384,378	58.8	441,755	58.5	2,174,778	59.8
売上総利益	268,848	41.2	313,719	41.5	1,462,155	40.2
販売費及び一般管理費	338,487	51.8	421,618	55.8	1,449,334	39.9
営業利益又は営業損失( )	69,639	10.6	107,899	14.3	12,820	0.3
営業外収益	7,222	1.1	10,662	1.4	36,741	1.0
営業外費用	10,928	1.7	12,800	1.7	30,658	0.8
経常利益又は経常損失( )	73,345	11.2	110,037	14.6	18,903	0.5
特別利益	471	0.1	57	0.0	4,171	0.1
特別損失	237,546	36.4	-	-	237,792	6.5
税金等調整前第1四半期 純損失又は税金等調整前 当期純損失	310,421	47.5	109,980	14.6	214,717	5.9
法人税、住民税及び事業税	3,943	0.6	9,884	1.3	35,554	1.0
第1四半期純損失又は当 期純損失	314,364	48.1	119,864	15.9	250,271	6.9